

わが国のみなとまちづくりにおける施設・空間の活用方策に関する研究

—「みなとオアシス」登録151港に着目して—

A Study on Utilization Methods of Facilities and Spaces for Waterfront Revitalization in Japan

- Focus on registered at 151 ports in "MINATO OASIS" -

○松田孝太郎¹, 岡田智秀², 落合正行²

*Koutaro Matsuda¹, Tomohide Okada², Masayuki Ochiai²

Abstract: The purpose of this study is to grasp the utilization pattern of the constituent facilities in "MINATO OASIS". As a result, it clarified (1) two types of facility utilization patterns, (2) characteristics of the facilities are clarified.

1. 研究目的; わが国では、港湾を核とした地域活性化方策として、2003年に港湾施設を一般市民に広く開放し活用を促進する「みなとオアシス」制度⁽¹⁾が創設され、みなとまちづくりに向けた取り組みとして期待されている。本制度は、既存の港湾施設を構成施設として登録し、施設間で連携を図ることで、地域交流や観光振興を促すものであり、この中には港湾エリア⁽²⁾だけでなく、背後市街地の多様な施設を登録・活用し、地域一体で取り組む地域がみられる。そこで本研究では、「みなとオアシス」に登録されている全国151港⁽³⁾を対象に、各港湾のエリア構成および構成施設に着目し、その登録状況を把握するとともに、市街地との関係について明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法; 以上より、表1に示す調査を行った。

3. 結果および考察; 本研究対象151港のうち、港湾計画図⁽⁴⁾を入手できた86港の港湾エリアと「みなとオアシス」登録エリアの関係から、港湾エリア内で「みなとオアシス」を展開する『港湾単独型』と、背後の市街地

を一体として「みなとオアシス」を展開する『市街地一体型』の2つの港湾タイプに分類した(図1)。これら港湾タイプごとの港格別港湾一覧および構成施設数を表2に、港湾タイプごとの構成施設分類別港数および施設数を表3に示す。さらに、港湾タイプごとの「みなとオアシス」登録延べ港数の推移と、港湾タイプごとの1港湾あたりの構成施設数を比較したものを、それぞれ図2、図3に示す。以降はこれらをもとに考察する。

(1) 登録港数および構成施設数からみる港湾タイプの特徴;

表2より、全86港のうち両タイプとも43港ずつと同数であり、港格ごとのばらつきも両港湾タイプで同様の傾向であった。一方、図2より、港湾タイプごとの登録港数の推移をみると、2003年の制度創設以降、特に2005年頃から『港湾単独型』が増え始めるが、近年は『市街地一体型』の増加が顕著であることがわかった。

さらに図3より、港湾タイプごとの構成施設数を比較

表2 各港湾タイプの港格別港湾一覧および構成施設数 [筆者作成]

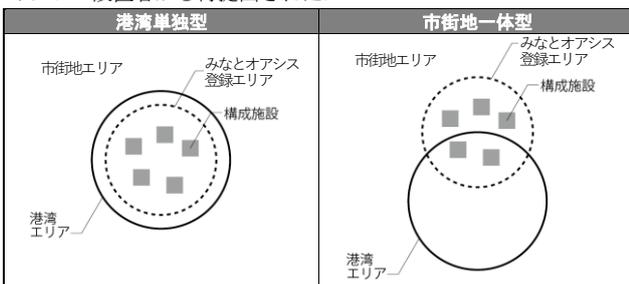
港湾タイプ	港湾単独型	市街地一体型
港格		
国際戦略港湾	横浜港 (1), 川崎港 (6), 大阪港 (7), 神戸港 (神戸) (11)	神戸港 (須磨) (4)
国際拠点港湾	室蘭港 (5), 苫小牧港 (6), 仙台塩釜港 (塩釜) (1), 千葉港 (8), 伏木富山港 (新湊) (9), 名古屋港 (新舞子) (4), 広島港 (坂) (4), 徳山下松港【周南市】 (3), 下関港 (9)	仙台塩釜港 (仙台) (13), 新潟港 (東港) (5), 新潟港 (西港) (14), 伏木富山港 (伏木) (4), 清水港 (2), 姫路港 (4), 和歌山下津港 (14), 広島港 (宇野) (18), 徳山下松港【下松市】 (6), 北九州港 (16)
重要港湾	稚内港 (5), 函館港 (5), 青森港 (12), 宮古港 (1), 久慈港 (1), 釜石港 (1), 船川港 (5), 小名浜港 (4), 両津港 (3), 田子の浦港 (3), 三河港 (蒲郡) (5), 境港 (8), 宇野港 (9), 尾道系崎港 (尾道) (5), 尾道系崎港 (三原) (3), 敦賀港 (9), 御前崎港 (6), 津松阪港 (津) (3), 阪南港 (8), (10), 三田尻中関港 (6), 徳島小松島港 (小松島) (2), 宇和島港 (3), 新居浜港 (8), 八幡浜港 (7), 宿毛湾港 (5), 唐津港 (5), 港 (4), 鹿儿島港 (20), 川内港 (5), 石垣港 (3)	釧路港 (4), 留萌港 (4), 紋別港 (5), 網走港 (5), 八戸港 (8), 大船渡港 (7), 秋田港 (5), 酒田港 (6), 茨城港 (大洗) (9), 木更津港 (6), 茨城港 (大洗) (9), 七尾港 (3), 敦賀港 (9), 御前崎港 (6), 津松阪港 (津) (3), 阪南港 (8), 日高港 (4), 鳥取港 (7), 浜田港 (8), 西郷港 (5), 福山港 (10), 長崎港 (14), 厳原港 (4), 郷ノ浦港 (4), 福江港 (3), 別府港 (3), 八代港 (6), 油津港 (6), 那覇港 (9), 平良港 (2), 中城港 (4)
地方港湾	岩船港 (5), 魚津港 (4)	福井港 (13)
N=86	【小計:43港(50%)】	【小計:43港(50%)】

[凡例] () 内の数値は各港湾の構成施設数 (単位: 件) を示す。

表1 調査概要 [筆者作成]

	資料調査	聞き取り調査
調査期間	2021年7月12日(月)~9月21日(火)	
調査資料	・みなとオアシス登録申請書 ・既登録みなとオアシス報告書* ・直近の港湾計画図	
調査対象	・みなとオアシス登録151港の内、港湾計画図を入手できた86港(表2)	・各港湾管理者 ・各みなとオアシス設置者
調査内容	・みなとオアシス設置者および運営者の概要 ・構成施設の機能・用途	・みなとオアシス登録目的 ・港湾計画図の有無

[凡例] ※2019年の運営要綱改正にともない、各港湾のみなとオアシス設置者から再提出された。



[凡例] - 港湾エリア - みなとオアシス登録エリア ■ 構成施設

図1 2つの港湾タイプの概念図 [筆者作成]

1: 日大理工・学部・まち 2: 日大理工・教員・まち

すると、『港湾単独型』は全43港中28港(65%)と5施設未満で構成されている港湾が多いのに対し、『市街地一体型』は全43港中23港(53%)と6施設以上で構成されている港湾が多いことがわかった、これより、「みなとオアシス」創設当初に多くみられた『港湾単独型』と比べ、近年増加する『市街地一体型』は構成施設数が多いことから、エリア内の機能性の充実や回遊性の向上への期待により、背後市街地への広がり方が推察される。

(2) 構成施設用途からみる港湾タイプの特徴；表3より、港湾タイプごとの構成施設の用途に着目すると、『港湾単独型』では「商業施設」が39件と最も多く、次いで「公園」が38件、「緑地」が28件、「海上交通ターミナル」が27件であった。一方、『市街地一体型』では、「商業施設」が46件と最も多く、次いで「公園」が42件、「文化施設」が32件、「海上交通ターミナル」が31件であった。施設数上位の「商業施設」と「公園」はどちらの港湾タイプにもみられたが、『港湾単独型』では「緑地」や「海上交通ターミナル」といった港湾エリア特有の施設が多い一方、『市街地一体型』では「文化施設」から「海上交通ターミナル」というように幅広い用途の施設がみられた。

また表3より、両港湾タイプの施設数の差に着目すると、『港湾単独型』では「緑地」や「業務ビル・事務所」、「多目的広場」の差が多い一方、『市街地一体型』では「文化施設」や「海水浴場」の差が多かった。さらに、『市街地一体型』のみの施設としては「海水浴場」や「陸上交通ターミナル」、「橋梁」、「船揚場」がみられた。これらより、港湾機能を重視した施設構成である『港湾単独型』に対し、『市街地一体型』は構成施設数が相対的に多く、特に集客要素が多くみられる等、港湾エリアと背後市街地との回遊性を生み出す施設構成に期待が集まる実態を捉えた。

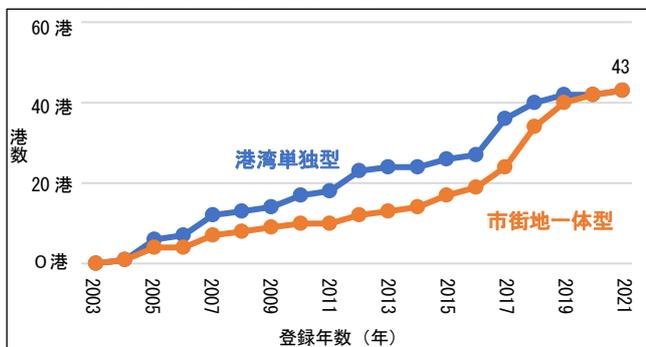


図2 港湾タイプごとの「みなとオアシス」登録延べ港数の推移 [筆者作成]

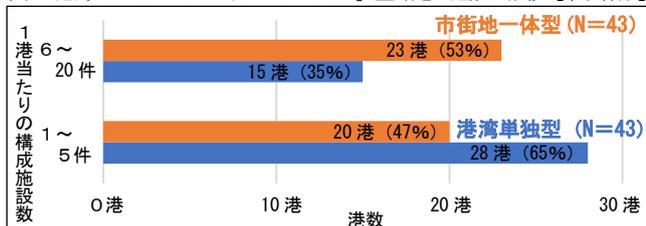


図3 港湾タイプごとの1港湾あたりの構成施設数の比較 [筆者作成]

4. まとめ；以上より、「みなとオアシス」に登録された全国151港のうち、港湾計画図が入手できた86港を対象に、各港湾のエリア構成から2つの港湾タイプに分類し、登録された構成施設から市街地との関係を明らかにした。

謝辞；本調査にご協力いただきました各港湾局の担当者様に厚く謝礼申し上げます。
補注；(1)「みなとオアシス」制度；国土交通省港湾局長が住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設を登録するもの。 / (2) 港湾エリア；本研究では、港湾計画図に示された範囲を「港湾エリア」と呼ぶ。 / (3) 2021年7月31日に国土交通省HPに記載されている「みなとオアシス」登録港湾一覧から算出。 / (4) 港湾計画図；港湾の開発、利用および保全並びに港湾に隣接する地域の保全に関する計画範囲を図で示したものである。
参考文献；1) 国土交通省HP：「みなとオアシス」、https://www.mlit.go.jp/kowan/kowan_tk1_00001.html (最終閲覧日：2021.09.17)

表3 各港湾タイプの構成施設分類ごとの港数・施設数 [筆者作成]

構成施設分類		港湾単独型		市街地一体型			
		港数(件)	施設数(件)	港数(件)	施設数(件)		
建設施設	集客関連	宿泊施設	3	3	4	5	
		キャンプ場	1	1	1	1	
		商業施設	26	39	26	46	
		観光レジャー施設	10	12	15	20	
		アミューズメント施設	1	1	1	1	
		集会所	10	10	8	8	
		文化施設	10	16	18	32	
		コンベンション	13	13	15	17	
		温泉施設・温水健康施設	1	1	3	5	
		スポーツ施設	3	3	3	3	
		観光案内所	10	10	10	12	
		待合所	7	10	6	9	
		不明	1	1	0	0	
		業務関連	人流関連	海上交通ターミナル	16	27	21
陸上交通ターミナル	0			0	2	2	
水産業務・研究施設	水産業務・研究施設			1	1	2	2
	コンテナ			0	0	1	1
	業務ビル・事務所			7	8	2	2
	金融施設			0	0	1	1
防災施設	1	1	1	1			
基盤施設	交通基盤関連	駐車場	2	2	6	8	
		プロムナード	4	4	4	4	
		橋梁	0	0	2	2	
		マリーナ・係留施設	5	5	8	9	
	レクリエーション関連	人工海浜	3	3	2	2	
		海水浴場	0	0	10	12	
		海岸	1	1	3	3	
		多目的広場	7	8	4	4	
		緑地	19	28	14	17	
		公園	23	38	27	42	
港湾関連	コンテナふ頭	3	3	4	4		
	物揚場	4	6	5	5		
	船揚場	0	0	2	2		
	岸壁	6	6	10	13		
防災関連	防波堤・防潮堤	2	2	3	3		
	護岸	1	1	1	1		
その他	その他	トイレ	1	1	0	0	
		岩	0	0	1	1	
		小島	1	1	1	1	
		水域	0	0	1	1	
合計			266		333		

【凡例】 □ = 説明箇所, □ = 比較箇所, □ = 『市街地一体型』のみ